

ヨシナカ新聞

1月号
発行所
株式会社ヨシナカ
東京営業所
TEL: 03-3555-0796
FAX: 03-3553-8444

ココアの効用とドロドロ

新しい年を迎え、例年になく寒い日が続いていきます。こんな時は暖かい飲み物が美味しく感じられ、また身体を暖めてくれますが、私は最近ココアを飲む事が多くなりました。

ココアはチョコレートと同じくカカオで作られており、ポリフェノールが多く含まれ、老化防止、ガン予防、生活習慣病予防、自律神経の働きを調節、イライラを沈めさせ、冷え防止、風邪予防に効果があり、血行を良くするそうです。

と、このココアを飲むようになったのが、飲む度に気になることが一つだけありました。それは一部溶けなかったココアの粉が容器の底に沈殿してドロドロと残ってしまう事でした。容器に残ったそのドロドロを洗い流す時、ココアの役目を果たせずに排水口に吸い込まれていく、まるで書き損じて捨てられていく原稿用紙の様に、人生を全う出来なかつたココアを見て、きつと彼らも美味しく飲んで貰いたかつたのだらうにと思つたと

申し訳ない気持ちになります。これを解決しようとして、最初に少し熱湯を入れてココアを溶かしたのりしてみましたが、やはり飲み終わるとドロドロが残ります。

もうこれは仕方ない事なのかなと思つていたのですが、先日テレビでドロドロが残らない方法を披露していました。それは、スプーンでかき混ぜる時に円を描くようにするのがなく、縦にジグザグとかき混ぜるだけでOKだと。円を描くようにかき混ぜると溶けきれなかつたココアが容器の中で洗濯物の様にぐるぐる回るだけだが、縦にジグザグにかき混ぜるとココアが浮き上がりそして溶けていくのだ。

これが本当なら素晴らしい事だと、すぐ同じように縦にジグザグにかき混ぜ、飲み終えて容器の底をみると、確かにドロドロはありませんでした。という事で、これからは後ろめたい気持ちにならず、そして健康に美味しくココアをいただくだけです！



ステンレス豆知識 二相ステンレス

二相ステンレス鋼はオーステナイトとフェライト組織の長短を持った材料で、海水環境での耐孔食性、耐すき間腐食性、ならびに淡水環境での耐応力腐食割れ性に優れた材料として、これまでのオーステナイト系ステンレス鋼に替わって、化学、石油精製、エネルギー、その他の設備に使われています。

代表鋼種にはSUS329J3L (22%Cr-5%Ni-3%Mo-N-低C)、SUS329J4L (25%Cr-6%Ni-3%Mo-N-低C) があります。二相ステンレス鋼はCr含有量が高いため耐食性(耐海水性)に優れ、高強度ですが、耐食

性の観点からフェライトとオーステナイトが1:1となるよう成分設計されている為、溶接熱影響部でのオーステナイト量が低めになると相バランスのくずれによって、じん性、耐食性は低下する傾向にあり、腐食や割れの事例が報告されているそうです。

プリーリードッグ

一昨年の6月号で東京都江戸川区西葛西にある行船(ぎょうせん)公園内にある無料の動物園にいるレッサーパンダを紹介させて頂きましたが、写真はその動物園にいるプリーリードッグです。身を寄せ合せて食事している姿がとても可愛かつたので撮影してしまいました。

リス科で、全て北米原産のプリーリードッグ。日本にいるのは「オグロプリーリードッグ」という、尾が黒いところから命名された種類たそうです。

雄一匹に対して雌数匹という一夫多妻制で、「コネリー」と呼ばれる家族を形成するそうです。縄張り意識が強く、敵対する雄を生き埋めにしてしまうこともあるそうです。

口と口でキスをしたり、抱き合ったりすることで挨拶を交わします。

その姿の可愛らしさから日本では人気が出て、一時期ペットとして輸入されていましたが、ベスト、野兎病などの感染症を媒介する恐れがあるとして、2003年に輸入禁止となりました。現在日本で販売されている個

体は、輸入禁止以前の個体から国内で繁殖されたものだそうです。

日本では人気のあるプリーリードッグですが、アメリカでは牧草地で家畜が巣穴で足を折ったり、入植者達の畑を荒らした事などから害獣扱いされ、日本におけるカラスやドブネズミのような存在として殆どは駆除の対象とされ19世紀には40億と言われたその数も、駆除を受けて98%減少したとされています。

しかし、それによりプリーリードッグを捕食していたクロアワシイタチが絶滅に追い込まれた事もあり、レッズドリフト(絶滅のおそれのある種のリスト)に登録されて、生態系の重要な一部を成す存在として保護が進んでいる地域もあるそうです。



K社員のピアノ奮戦記 第48話 おぼけの手

楽器店で購入した「脱力」の特集記事が載っているピアノ雑誌を帰宅してすぐ読みました。名の通った(そうです)8人のピアノの講師達のそれぞれ独自の脱力方法が書いてあります。

瞬発力とタイミングを説く講師、脱力体操を披露する講師、運指+重さ+リズムの三位一体説を唱える講師等色々な脱力方法(らしい)が書いてあります。素人の私にとつてはどれもあまりピンと来ません。ああ、やっぱり無理なのか。

でもそんな中、一人の女性講師の文章が印象に残りました。それは「おぼけの手」。そう、あの「うらめしや」の時の手です。その状態で鍵盤を押さえる事で脱力の体感を得られるというのです。

早速、電子ピアノの前でおぼけの手を試してみます。鍵盤をうまく叩けないけど確かに手首には力が入っていません。あとはこれをどう演奏に繋げるかですが、なんと幸せな事に、すぐにそれを解決してくれる演奏者の映像に出会ったのでした。